

福祉事業所のモノ作りのための イラストレーター研修

特定非営利活動法人 萌友 -for you

〒654-0054 兵庫県神戸市須磨区須磨本町 2-1-36

助成事業の概要

刺し子ふきんオリジナルデザイン開発のため、職員を対象に Adobe デザインソフト「イラストレーター」の使い方を学ぶ研修を行いました。時期、内容は以下の通りです。

7/27 (水) 基礎編 (1)

デザイン基礎の話、イラストレーターについて(講義)

7/29 (金) 基礎編 (2)

イラストレーターの基本操作を学ぶ I (実技)

8/15 (月) 基礎編 (3)

イラストレーターの基本操作を学ぶ II (実技)

8/16 (火) 基礎編 (4)

課題・イラストレーターで名刺を作ろう (実技)

9/13 (火) 基礎編 (5)

名刺デザインの発表(実技)、操作の復習と応用(講義)

10/14 (金) 基礎編 (6)

刺し子ふきん既存柄のデータ化 (実技)※

11/21 (金) 応用編 (1)

刺し子ふきん新柄のテーマとコンセプト検討 (講義)※

12/26 (月) 応用編 (2)

送りデザインとリピートデータの作成方法(講義)※

1/21 (土) 応用編 (3)

課題・デザインアイデアチェック (実技)

2/22 (水) 27 (月) 応用編 (4)

デザインデータ作成、アドバイス (実技)※

3/13 (月) 応用編 (5)

デザインデータチェック、修正方法アドバイス(実技)※

3/24 (金) 応用編 (6)

完成デザインの発表、講評 (講義)※

※印の回はオンラインでの研修、それ以外は事業所で対面研修を行いました。

事業の成果

普段の業務ではあまりパソコンを使うことがない職員も多いため、まずパソコンに慣れることが必要で、その上で更に、デザイン専門ソフトの操作を学ぶという難しさがありました。そのため、研修前半の基礎編では対面形式での研修を少人数制で行い、基本操作を丁寧に教えていただける環境を整えました。その結果、研修に参加した職員全員がイラストレーターの基本操作を行うことができるようになり、今まで事業所の職員は誰も全くこのソフトを使えなかったことを考えると、本研修が萌友の DX (デジタルトランスフォーメーション) の実現に大きく寄与したと考えております。

後半の応用編では、実際に、刺し子ふきんオリジナルデザインを考えるという課題を通して、萌友の現状やこれからどんなお客様に萌友を知っていただきたいか、どんなお客様に商品を届けたいかなどを話し合いました。具体的な課題としては、伝統柄とオリジナル柄はあるがそれらを繋ぐ中間に位置する萌友らしいデザインがないことや、多くの利用者が縫いやすいオリジナル柄がないこと、中間の価格帯の柄がないことなどがあげ

られました。また、実際に刺し子ふきんを購入していただいているお客様の年齢層も高齢化しているため、若い方や新規のお客様にも手に取っていただけるような商品づくりが必要ではという意見もあがりました。それらを踏まえ、「母から娘への嫁入り道具」(実用的なギフト)というテーマを設定し、オリジナルデザインを考えました。実際に完成したデザイン 5 柄は、今までの萌友にはない、だけど萌友らしさが表れているデザインとなり、職員のモノづくりに対するモチベーションアップにもつながりました。

今回、この研修を通して、大きな視点で職員同士の意見交換、共有ができたことがとても良い機会となりました。いつものモノづくりでもなんとなくイメージしていた萌友らしさはありませんでしたが、それらをきちんと言語化することで、その意味を考えなおし、職員全員で私たちの目指したい姿や作りたい商品を考えることができ、主体性を持った商品開発の取り組みが始められたのではないかと感じています。単にイラストレーターの使い方を学んだだけでなく、デザインの基本や考え方、商品開発の流れも学ぶことが出来た、大変有意義な研修でした。

成果の広報・公表

今回の研修では、刺し子ふきん既存柄(図案)のデジタルアーカイブ化にも取り組みました。これまでは、紙に描かれた原画を、その都度、手書きで別紙に書き写し使用していたため、図案に微妙なズレが生じていたり、余計な手間がかかったりという課題がありました。イラストレーターでそれぞれの図案をトレース(写す、パス化する)し、デジタルデータ化しておけば、必要な時にはプリントアウトをすれば誰でも素早く簡単にコピーが出来ますし、サイズの変更(拡大・縮小)や部分的なアレンジなども簡単に出来ます。こうして、

この研修を通して整備した刺し子ふきん既存柄のデジタルデータは、「刺し子ふきん図案カタログ」として冊子にまとめました。このカタログは今後、お客様や関係者、色々な方にお配りする予定で、萌友の WEB サイトにも掲載ができればと考えております。

また、今回の研修を通して、職員はイラストレーター基本操作のスキルが身についたので、それを活かしていくためにも、今後、萌友で発行するお手紙や案内文書などを、イラストレーターを使って制作してみるという案も検討中です。

今後の展開

今回の研修の成果の一つとして、刺し子ふきん新柄(案)が 5 つ出来上がりました。これらの図案は、イラストレーター研修の課題として制作したものですので、実際に利用者がこの図案を上手に刺せるか(縫えるか)や、またその図案で刺した場合の商品の価格はどうなるかなどを考慮すると、修正やアレンジが必要になる可能性があります。今後は、実際に刺し子ふきんを試作してみ、図案のチェック、価格設定の検討を行い、新商品の開発に繋げていきたいと考えています。また、それぞれの図案にはそれぞれのテーマがあることから、そのテーマから発展させた新柄開発の可能性も多いにあると思っています。さらには、タブレット端末とイラストレーターを連動させることで、利用者でも簡単にデジタルイラストが描ける可能性があるため、利用者が描いたデジタルイラストを刺し子ふきんの図案にアレンジできるのではというアイデアもあります。萌友としての商品開発、刺し子ふきんのブランディングをしっかりと考えながら、利用者が楽しく前向きに刺し子が出来るように、そして、より多くのお客様が萌友の刺し子ふきんのファンになってくれればと願っています。